

Southeast Asia Regional Network

News Letter



宇都宮大学国際学部・国際学研究科同窓会東南アジア支部ニュースレター

Southeast Asia Regional Branch,
Faculty of International Studies & Graduate school of International studies
Utsunomiya University Alumni Association

Vol. 5

September, 2018

CONTENTS

1. ご挨拶
2. 親睦会
3. イベント
4. リレーインタビュー
5. 連載コラム New



1
ご挨拶

祝！東南アジア支部創設1周年

東南アジア支部は、おかげさまで1周年を迎えることができました。この1年間は主に来タイされた先生方や交換留学生の方と多く懇談の場を持つことができ、大学・同窓生間の距離が近づいていることを実感することができました。また、同窓生の今を発信しようとスタートしたニュースレターもメンバーのご協力により少しずつ形になってきました。そこで2年目は、より東南アジア支部らしさを伝えるべく新コーナーを開設しました。是非みなさんも東南アジアを共に感じ楽しんで頂けると幸いです。今後ともご愛読の程よろしく願いいたします。

東南アジア支部の仲間になりませんか？



思い立ったら吉日！
searbafis@outlook.com まで
ご連絡お待ちしております。

仲間募集中

2
親睦会

歓送迎会@バンコク

8月3日(土)約1年間のカセサート大学留学を終え日本に帰国された玉城恵さん、そして8月より来タイされた新交換留学生の押野拓也さん(3年)・藤田萌萌夏さん(4年)また、6月より5か月間カセサート大学にて研究留学されている連合農学研究所博士課程学生の青柳悠也さん(農業機械学専攻)を迎え、バンコク市内にて歓送迎会を開催しました。国際学部の学生のカセサート大学交換留学制度がスタートして22年。留学制度や内容、生活環境など時を経て変化する中で、ただひとつ変わらないのが、学生さんのタイを知りたい！という純粋な想い。同窓生の私たちも学生時代の純粋な想いを思い出し、初心を見つめ直す良い機会となりました。在タイ組との交流をますます深めていきたいと思えます。



左から、青柳さん(農)、玉城さん、押野さん、藤田さん、大畑さん、ポーさん(大宮さん奥様)、大宮さん、本間さん、橋本さん(工)、大部さん(工)、後藤先生(農学部名誉教授)

第1回UU-AA同窓会総会開催@バンコク

昨年10月に発足された UU-AA Thailand(タイ国宇都宮大学同窓会)の第一回総会が8月25日(土)、バンコク市内にて開催されました。会にはタイ人元留学生、日本人同窓生(大部さん、田邊さん、本間さん、原さん、大宮さん、大畑さん)の他、来タイ中の後藤先生(農)、マリー先生、重田先生そして新交換留学生(押野さん、藤田さん)、現在農学部留学中の青柳さんも参加され終始和やかに交流を深めることができました。国籍、世代間、学部間の垣根を超えて助け合い、情報交換しながら交流を深めていこうとのナロンチャイ会長のお言葉の通り、宇都宮大学出身者という共通の里心をもつ者同士、このような会がこれからも継続し、新しい世代にも受け継がれていくことを期待しています。

記念写真はミニハート♥で、イェーイ



日本留学フェア@バンコク

8月26日（日）バンコク市内ホテルにて独立行政法人日本学生支援機構主催による日本留学促進を目的とした「日本留学フェア」が開催されました。今年は宇都宮大学を含め国公立大学や日本語学校などを合わせ87もの教育機関が参加し、会場は学生や教育機関関係者約2,000名の来場のもと終日賑わいを見せていました。宇都宮大学のブースでは、マリー先生、後藤先生（農）、学生部留学生・国際交流課留学生係職員の沖杉さんの他、在タイ同窓生本間みずほさん（3期生）が通訳として共に宇都宮大学の魅力を発信してくださいました。ブースを訪れた方は主にタイ人の学生さんでしたが、中にはご家族の駐在のためタイに滞在し、お子さんの大学進学のため情報収集にこられる日本人の方もいらっしゃいました。宇都宮大学の知名度が上がり、ますますタイからの留学生が増えることを期待しています。



第4回目は、FUN CLUBメンバー※初登場！

※Fun Clubとは、東南アジア域外在住メンバーとして仲間となってくださった方を指します。

Profile

平田 勝博さん

- 広島県出身
- 大阪在住4年目
- 国際社会学科卒
3期生（友松研究室）

Katsuhiko Hirata
平田画伯のうさぎ

大学卒業から現在までの道のりは？

大学を卒業してからは渡米し、医療系のNGOに就職したくて約1年間看護学を学びました。しかし看護士の資格を得て一人前になるまでに数年かかることを諸先輩たちから聞き、まずは社会人になろうと日本に戻ってきました。人に関わる仕事したいと思っていたので、その当時成長していた技術系の人材派遣会社の営業として就職しました。業界が急成長していることもあり、実績はトントン拍子に上がり、2年弱で営業所の所長に就任！！ただしその頃は人材派遣業に潜在的な不満と不安を抱えていたため、大学同期の〇田さんからの紹介でタイの表面処理会社に来ないかという誘いをもらい、転職しました。本社は長野にあり、タイにその当時は3工場もある会社でした。タイでは約8年弱この工場の現場でタイ人達と切磋琢磨しました。

現在はどのようなお仕事をされていますか？

現在は更に転職し食品メーカーの海外営業をしています。当初はマレーシア、シンガポール、インドネシアを担当し、その後インド、ヨーロッパ、今は韓国を担当しています。だいたい月1回、1週間程度は担当地域に出張しております。

タイ勤務の経験が現在活かされていますか？

タイでの8年弱の生活で培った柔軟性と忍耐力は今の業務でも活かされていると思います。ただし若い時に管理職になったことで、天狗になることで周りから敵視されることもあり、一長一短だなとも思っております。タイで経験したデモや洪水はその当時は大変でしたが、今では良い思い出です。



インドの顧客工場にいた野猿

最近のライフスタイルは？

最近はおっぱらマラソン大会に向けてトレーニング中です。昨年金沢でフルマラソンに初めて参加して4時間半で無事完走。今年も10月の金沢マラソンに向けて月100キロを目標に走っております。またタイで始めたアクアリウムも先月より再開。日々熱帯魚やエビを観ていると癒されます。



インドの豪華定食

今後の抱負も踏まえ10年後を思い描くと？

今の生活にはある程度満足しているけれど、EVやAIの進化でどんどん生活も仕事も変化していくと思う。その中で自分をどれだけその環境に適応できるかが勝負になってくる。本音を言えばあと10年くらいで仕事を止めて、放浪旅をしたい。学生の頃にやっていた貧乏旅行やもう少し豪華な旅行がしてみたい。もしくはヨーロッパに駐在しヨーロッパ各国やアフリカに行ってみたい！！そのためにも今のへなちょこな英語力や日本のことをもっと学び、様々な国の人達と対等に会話出来る様に勉学に励むことも重要であると思う。



有名な杉並木のロード

みなさんへメッセージを！

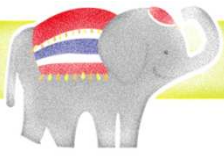
人生は一度きり！！
喜ぶのも、怒るのも、悲しむのも、楽しむのも自分次第。周りや環境とかは一因でしかありません。自分に力がないとは思わず、まずは思いっきり色々やってみましょう。私は責任取りませんが(^_^)

成功や失敗はその時の結果でしかありません。何が成功で失敗かは最後にならないと分かりません。その「最後」を自分の尺度で決めれば良いのです。

時代は日々変わってきます。

変化を楽しみましょう！ チャオ！

第5回
◆タイの昨今◆
-LINEは生命線-



小2の息子が通うキリスト教系私立校の情報伝達手段は“LINE”。「学校」「クラス(担任+保護者)」「保護者会(担任除く)」この3つのグループラインに入っていないければ親子共々学校生活を平穏に送ることはできないという、ラインはいわば学校生活の生命線です。子供達には宿題や連絡事項を写す連絡帳もありますが、ライン上で展開される保護者同士のやりとりによって、宿題や提出物の存在が明らかになることがほとんどという現実。できる子のノートがライン上で出回り、有り難く?宿題を写すこともできたりします。また、我がクラスの保護者

会長は随時学校に張り付いて、学校や先生側から色々な情報を聞きだしラインで展開してくれるという女神のような存在でもあり、何とか我家もライン頼りに必死に日々こなしているといった状況です。2年生の新しい副担任は、保護者への連絡や情、問い合わせなどをマルチに対応するライン専用窓口。どんな内容でも瞬時に回答してくれるので手慣れたものです。そんな副担任から最近、「忘れ物をした子供たち」「いたずらをした子供たち」を写した見せしめ写真(クラスの前に並ばせられている姿)が

バンバン送られてくるようになりました。もちろんご多分にれず息子の姿も名前もよく出てきます。汗…先生としては、学校での子供の素行や問題を親に知らしめ様に役立ててほしいという一心なんだろうが、何でもかんでもグループラインに名指し・顔出しで…というのは日本では考えられないことですよ。



▲ いたずらした子は罰として昼休み返上で英単語のお勉強

とはいえタイはまだまだ先生が尊敬されるお国柄。男子クラス50人を取りまとめる先生の苦勞を労う保護者がいてこそ成り立つ社会でもあるわけで。そんな複雑な思いを抱きつつ今日もスマホが離せないこの私。(大畑美優紀/1期生)

狙え
インスタ映え!?



アジア取材雑誌

皆様はじめまして。
フリーディレクターの谷澤と申します。2006年に国際社会学科を卒業後、11年間にわたり某公共放送のTVニュース番組でディレクターをしておりました。うち6年間はタイの首都バンコクに駐在、主に東南アジアの取材・企画制作にあたりました。今年4月より、かつて交換留学していたインドネシアを拠点にアジアの取材を続けております。初回から、いきなりネタに困っていましたが、仕事柄、皆様が普段ご覧にならない

ような場面に出くわす事もございますので、通しテーマを“インスタ映えInstagrammable”と無理やり設定させていただきます。ご容赦下さい!

さて最近アジアで起きた世界史に残る可能性のあるイベントという、シンガポールで開催された米朝首脳会談ですね。私は某放送局に雇われ、トランプ・キムジョンウン両首脳が会談先に向かう車列の様子を、丸一日、中継しておりました。とはいえ距離もありますので、車内の本人を確認することはできず、許して下さい。きっと、乗ってはずです!

私がこの眼で“両首脳”を目撃したのは前日買い物中に偶然遭遇した“そっくりさん”の写真会。一緒に写真を撮るには800円払ってよ!とは、商魂逞しいシンガポール人のイベント会社社長(女性)。

その絶妙な値段設定にたまげました…
(谷澤壮一郎/7期生)



今旬のイチマイ



第一回

ともに感じる東南アジア

スペクトラと呼ばれる光のレーザーショーに酔いしれるひととき

トムソン(渡辺)はる/3期生

マリナベイエリアの陸側(マールライオン付近)からマリナベイスンズ方面を撮影